

(2)教師の活用(中学校)

【領域】

話すこと[やり取り]

【使用ツール】

■ Chat GPT

【対象校種】

中学校



【生成AI活用の目的】

- 教科書の対話文を基に、発展的なやり取りができるようにしたい。
- 生成AIでフライヤーを作成することで、話す内容の選択肢を増やし、自分の気持ちを表現する機会を作りたい。

(2)教師の活用(中学校)

中学校2年生の授業

学習指導要領の五つの領域別の目標(ア, イ, ウ)を基に, 単元目標を決めて教師と生徒で共有することで, 「育成を目指す資質・能力」を常に意識できるようにします。

<話すこと[やり取り]イ>

日常的な話題について, 事実や自分の考え, 気持ちなどを整理し, 簡単な語句や文を用いて伝えたり, 相手からの質問に答えたりすることができるようにする。



<単元目標>

週末の予定について, 行き先を決めるために, フライヤーやウェブサイトの情報を参考にし, 自分の気持ちや考えなどをまとめて分かりやすく伝えたり, 相手の質問に答えたりすることができる。

(2)教師の活用(中学校)

対話練習を型にはめた指導にしないために

教科書の対話文をペアで読み合うだけの活動から、自分の気持ちや考えなどを伝え合う言語活動に発展させたいです。そのために生成AIにフライヤーを作成してもらい、それを基に言語活動を行います。

A: Hello?

B: Hi, Kaito. This is Meg.

B: Oh! Hi, Meg. What's up?

A: The Midori Music Festival will be held this weekend. I want to go on Saturday. Do you want to go with me?

B: I'd like to, but I can't. I have to go to the dentist.

A: Oh. That's too bad.

なぜそこに行きたいのか、理由などを考えることで思考を働かせたい。

相手の話に関心を持ち、日程調整をするようなやり取りをさせたい。

<生成AIへの指示>

「あなたは教師です。この対話文を基にし、生徒に話す練習をさせたいと考えています。相手を誘う内容が「祭り」だけにならないように他の選択肢を生徒に示したいと思います。何か生徒が興味をひくようなイベントや祭りを考え、フライヤーのようにしてもらえますか？」₃

(2)教師の活用(中学校)

フライヤーを活用することで、思いを伝え合う活動に


生成AIが作成したフライヤーです。このフライヤーの情報を基に、生徒自身が興味・関心のある場所を選んで相手と対話をするすることで、自然と自分の思いを伝え合うことにつながると考えます。

<Flyer 1>: Art Show

 **Date:** Saturday, August 10

 **Time:** 10:00 AM - 5:00 PM

 **Location:** City Hall

 **Details:** You can see new art by local artists.

There will be paintings and sculptures. It is free to enter!

 **Cost:** Free

<Flyer 2>: Movie Screening

 **Date:** Sunday, August 11

 **Time:** 2:00 PM - 4:00 PM

 **Location:** Cinema Park

 **Details:** You can watch a new action movie.

Popcorn and drinks are included. The ticket costs ¥1,000.

 **Cost:** ¥1,000

発展ver.はDetailsの部分を少し読み応えのある情報にしてもよい。

(2)教師の活用(中学校)

フライヤー活用の利点

フライヤー活用の利点を3つ挙げます。※生成AIが作成した利点から3つ抜粋しました。



<視覚的な理解の向上>

フライヤーは視覚的に情報を提供するため、文章だけではなく、**画像やレイアウトによって内容が分かりやすくなる。**

<リアルな状況設定, 興味を引く教材, 多様な会話内容>

フライヤーを活用することで、**実際のイベントや製品情報を基に生徒が現実のシナリオを想像しやすくなる**ため自然な会話練習ができる。また、日常的な情報が豊富なため多様なトピックでの練習も可能になる。フライヤーは色鮮やかなデザインや工夫されたレイアウトにより、生徒の興味を引き、楽しく学べる環境を提供できる。

<応用力の向上>

フライヤーをもとに対話を展開することで、生徒は**既存の対話を応用し、さまざまな場面に適用する力**を養える。これにより、より柔軟な英語運用能力が身につく。